

【ふらつく車両を追跡して通報・制止し検挙につながった事例】

ある日の夜、私は、指導者を務めております柔道教室を終え、車を運転しておりました。

ふと前方を見ますと、対向車線のヘッドライトが明らかに中央線をこえ、私の走っている車線上をこちらに接近してきているのに気付きました。

慌ててハンドルを切り、何とか衝突を回避しましたが、危うく正面衝突するところでした。

私は、「飲酒運転か居眠り運転に違いない。」と思いましたが、直ぐに、柔道教室の子供たちがこの道路を通過して帰っていることを思い出し、

このままだと危ない、直ぐに警察に知らせないと！

という思いで頭がいっぱいになりました。

直ぐに車をUターンさせ、後を追いましたところ、その車は私から見て対向車線、つまり、右側の車線を私と同じ方向に進行しており、何とも異様な光景でした。

その車は、結局、対向車線を逆走したままコンビニの駐車場に入りましたので、私も駐車場に車を入れると、車から男性が降りてきましたが、顔が赤く、明らかに足がふらついていましたので、飲酒運転であることを確信しました。

男性は店内に入り、買物をしている様子でしたが、悪びれた様子が全く見られず、見ているうちに、未だに飲酒運転をしていることに腹が立ってきたとともに、

このまま行かせてしまったら、絶対に事故を起こす

と強く思い、出てきたら呼び止めようと決意しました。

しばらくして、男性が店から出てきて、車に乗り込んでエンジンをかけましたので、私は、直ぐに近づき、運転席の窓を叩いて

あんた、酒飲んどろうが、運転したらいかん！

と大きな声で告げますと、男性はビックリした様子で、「すみません」と平謝りを始めました。

私は、警察に電話しながら、男性にギアを「N」に入れさせ、「エンジンキーを取るばい！」と告げて、エンジンキーを抜き取りました。

男性は、すっかり観念した様子でした。

しばらくしてパトカーがやってきたので、合図をして駐車場に誘導し、警察官が男性をパトカーで連れていきました。

このような経験は今回が初めてのことでしたが、

通報するに当たって、特に迷いはありませんでした。むしろ、被害者が

出ず、家族も苦しい思いをせずによかった。

という思いが強いです。

飲酒運転が未だになくなりませんが、これまで事故が起きているのに、どうして飲酒運転をするのか理解できません。もっと罰則が重くなればいいのではないかと思います。